

適切な場面で手指消毒できるように消毒剤の設置場所を考えましょう



歯科医院の入口



受付テーブルに



滅菌器付近



手洗い場



診療室の入口



診療室内

# 歯科診療における 感染対策のすすめ

感染予防は手指衛生から

監修： 柏井 伸子 先生（有限会社ハグクリエイション）





知っていますか？

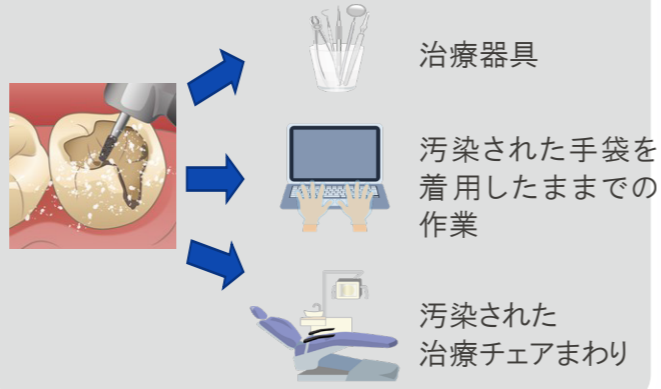
## 歯科医院には流行性疾患蔓延のリスクと 治療中の飛沫による交差感染のリスクが存在<sup>※1</sup>

### 複数の人が入退室することによる 流行性疾患の蔓延リスク



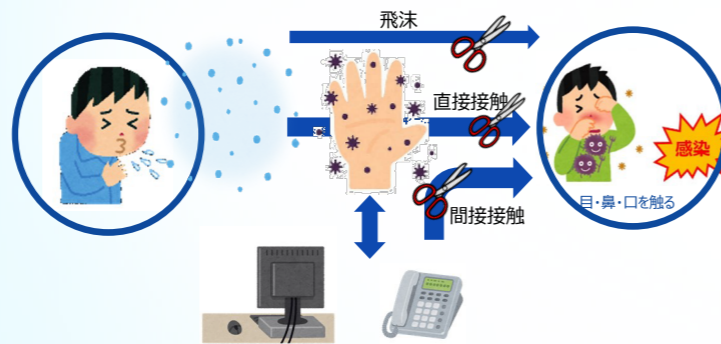
- 新型コロナウイルス
- インフルエンザ
- 流行性胃腸炎 等の蔓延のリスク

### 治療中の飛沫による交差感染のリスク 共有した物品や華僑表面から手指を介して微生物が伝搬



## 感染症の 80% は手指から感染します<sup>※2</sup>

感染予防の基本は感染経路を遮断することです。飛沫感染予防はソーシャルディスタンスやマスクの着用も重要ですが、環境表面を汚染した飛沫がそこに触れた手指を介して間接的に接触感染するので、飛沫感染する疾患でも手指衛生は重要な対策になります。



### 手指衛生の使い分け

一口に手指衛生といっても石鹸と流水の「手洗い」とアルコール消毒剤を用いた「手指消毒」があります

#### 目に見える汚れがある時は

##### 流水と石鹸による手洗い



#### それ以外

##### アルコール消毒剤による手指消毒



## 手指衛生が必要な 4 場面 + 1 <sup>プラスワン</sup>

### 歯科医師・歯科衛生士・歯科助手のための 4 つの場面

患者様と自分自身を守るために適切な場面で適切に手指消毒を実施する必要があります。

- 1 治療前の滅菌物取り扱い時 = 扱げない
- 2 患者への接触前 = 持ち込まない
- 3 治療中の手袋着脱前後 = 扱げない
- 4 患者への接触後 = 持ち出さない

の 4 つの場面では必ず手指消毒をしましょう。

※手指消毒剤は約 20 秒間程度乾くまでしっかりと擦り込みます



### 要注意 手袋の上からの手指消毒は危険がいっぱい

アルコールはゴム製品を劣化させます。手袋の上からの手指消毒は手袋を劣化させピンホール発生リスクを高くします。

※手袋にはピンホールという小さな穴が開いている可能性があり漫然ではない<sup>※3</sup>

※手術使用後の手袋のピンホール発生率は 37-52%<sup>※4</sup>

**手袋の中**

湿度 **高**

温度 **高**

手袋にピンホールがあると病原微生物は手袋の中に侵入します

**細菌繁殖 ↑**

手袋を脱いだ手肌上に病原微生物が増加

手荒れや切り傷がないよう日頃からのスキンケアも重要です

手袋を着用した上からの手指消毒は消毒剤を万遍なく擦り込むことができないため、十分に消毒はできません

<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/10506>

手袋の上からの手指消毒は NG

### 患者様にも <sup>プラスワン</sup> + 1

治療現場に病原微生物を持ち込まないため

#### 患者様が診療室に入る前に

手指衛生をお願いすることも重要です



※1 日本歯科医学会監修 “エビデンスに基づく一般歯科診療における院内感染対策実践マニュアル改訂版”

※2 UI health worksand worksafe IOWA <https://worksafe.public-health.uiowa.edu/pubs/bulletin/Dec-2013.html>

※3 WHO Guidelines on Hand Hygiene in Health Care

※4 石黒美裕紀、薦田しず江、水谷まゆみ他：器械だし看護師が使用する手袋のピンホール発生状況に関する調査。手術医学、31(4)。Pp339-341, 2014